



新年度が始まり、2ヶ月が経とうとしています。

この間、校長室には、多くのゲストがやって来て、ご挨拶を頂いております。4月当初に新入学生が自己紹介のご挨拶、学校探検の一部で校長室への訪問とともにご挨拶、クラスのお仕事の合間に廊下から気になる校長室を覗いて笑顔のご挨拶、気分転換のため一人で訪問、言葉をかけると頷きながらご挨拶、先日は高等部2年生の授業で、「働く人インタビュー」として、丁寧な依頼のご挨拶。



「礼に始まり礼に終わる」これは、武道において作法を守り、相手への敬意を示し、その精神で試合に臨むことを意味した言葉ということです。社会人に向けた就活セミナー等でも、挨拶の作法が重要なプログラムとなっています。

私事で恐縮なのですが、20年以上前に勤めていた学校の最寄り駅に交番があり、警察官が朝は横断歩道で安全指導、夕刻は立番で街頭監視を行っていました。そのうち、ベテランの警察官とは、暖かい挨拶を交わすようになり、2年も経った頃でした。いつものように挨拶を交わすと、

「ここで退職になるが、あなたの挨拶がとても印象的だった。これからも大事にしてほしい」と。自分自身が自覚もなく、思いも寄らぬ言葉への感謝の一方で、警察官という固い職業にも関わらず、優しい笑顔で市民の皆様に接しているその警察官の姿に感銘をし、その笑顔に引き寄せられるように、挨拶を行っていた自分に気づかされました。僅かな時間ではありましたが、その思いを伝え、握手をしながら別れの挨拶をしたことを思い出します。

挨拶は、当たり前のことかと思いますが、挨拶の持つ意味の深さは、この体験に留まらず、多くの日常場面を通して感じ取ることができます。

- ① 相手や自分の緊張をほぐすこと
- ② 相手により印象を与えること
- ③ 自分自身を理解してもらうきっかけになること
- ④ やりとりが円滑になること

本校で推進しているキャリア教育においては、挨拶は基礎基本です。社会参加に向けて、また自分らしい生活を送るために、その意味の深さを踏まえ、様々な教育場面で繰り返し指導支援を行っております。

